

第2回 防 災 講 習 会 (HUG)

日 時 : 7月6日(土曜日) 9:30~11:40

会 場 : 大岡地区センター2階会議室

参加者: 62名。連合自治会・コミ推進委員会役員 コミ専門部長、自治会長、各自治会防災担当者・コミ消防防災部員、コミ女性部、大岡社会福祉協議会

司会: **井出消防防災部長**より今日の防災講習会の趣旨説明ではじまり、**連合自治会長**から防災の重要性の話がありました。

2011年3月11日の東日本大震災で、津波により仙台市荒浜小学校は、海から700メートルの場所に位置し、児童1人が犠牲になり、校舎は2階まで浸水しましたが、避難した320人は助かりました。大岡地区では津波は狩野川・黄瀬川合流点まで来ると思われますが、地震の方が被害は甚大だと思われます。「**自分の命は自分で守る**」この、防災講習会で日頃の備えについて、もう一度考える機会になればと思います。

市川副会長より、「避難所運営訓練・避難所開設スタートキットについての説明」

【避難所運営訓練問題点】

① 夜間、降雨、冬季時にすぐ避難所を利用出来ない時、自治会内に風雨を防ぐ場所があるか。(一次対応前)

② 巨大地震警戒が発表された場合は、事前非難対象地域には、自治体から事前非難の呼びかけが行われます。避難の呼びかけは、

※ 対象地域にいる全員が事前避難との場合。※ 高齢者など要配慮者のみの対象となる場合。

防災講習会風景

※ 事前避難の対象者は、浸水想定区域外の非難所や知人宅などに移動し、1週間の事前避難を行います。

【避難所開設スタートキット】

避難所開設スタートは、災害時に避難所を速やかに開設・運営するために必要な手順書や物資をまとめたものです。これにより、避難所開設の経験がない人でも、スムーズに避難所運営を開始できます。

(非難所開設スタートキットの内容)

① 手順書: 避難所開設の初期段階から運営までの流れを班ごとに分かりやすくまとめたもの。

② 必要部品: ブルーシート、工具、清掃用品、文房具など、必要な物資。

③ 掲示物: 避難所内の案内表示、注意事項、各班の役割表示など、避難所運営に必要な掲示物。その他: 運営役員用のベストなど、避難所運営に必要なものが含まれる場合もあります。

避難所開設スタートキットの目的は、迅速な避難所開設。災害発生時の混乱を軽減し、迅速に避難所を開設するためには、スムーズな運営が必要です。避難所運営のノウハウがない人でも、手順書に従ってスムーズ運営できる。混乱の軽減は、避難所の立ち上げから初期段階までの行動を支援し、避難者の安全確保や生活環境の整備を円滑に進め、地域住民の主体的な参加が必要。避難所運営には地域住民が積極的に参加できるよう、分かりやすく手順をまとめることが必要です。沼津市では、市内各小中学校に避難所開設キットを配備しています。また、避難所開設・運営訓練を実施し、地域住民の防災意識の向上と、避難所運営能力の向上を図っている。

各自治会でも自主防災組織があると思いますが、木瀬川自治会の例、自主防災組織図には、本部、防災部正・副、情報班、防災・消火班、救出班、避難誘導班、給食給水班、救護班、福祉班、連絡網、約90名の、組織図がありますが、コロナ禍以降機能していないのが現実です。一次避難所の場合、今後どのように活動するかが課題です。

森岡副常任委員長より避難所 HUG の説明がありました。

日本は、世界有数の地震国であり、いづどこでも大地震が発生しても不思議ではありません。大地震が発生した場合、家屋の倒壊や津波、火災、山・がけ崩れなどにより、被災した多くの人々が避難



所での生活を強いられることになります。

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対処すれば良いのでしょうか。避難所 HUG は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発したものです。避難者の年齢・性別・国籍それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

プレイヤーは、このゲームを通して災害保護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また、炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのまま意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

HUG は、H(hinanzyo 避難所)、U(unei 運営)、G(game ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けました。

〈ゲームの設定条件〉

- ①地震の発生状況： 7月6日午前5時に大地震発生(マグニチュード9, 0)、震源は駿河湾沖、沼津市は震度7を想定。
- ②日時・場所、天候： ここは、避難所の学校の体育館、校舎と体育館は耐震化済み、大きな被害なし、(応急危険度判定結果 使用可能)。今の時間は午前10時から午後5時の間(地震発生から5～12時間後)。朝から雨が降り続けている(だんだん強くなってきている)。気温は27度、湿度80%、強い風が吹いている。
- ③ライフライン： 電気、ガス、水道すべて遮断。電話は、時々通じる、メールは、遅れて届く。
- ④避難所としている使える場所： 体育館・校庭・教室1、2、3。
- ⑤学校の設備、備蓄してあるもの： 非常用発電装置、仮設トイレ、備蓄材料は、なし。救護所は設置されない。
- ⑥避難の状況： 校庭に100人程度の避難者がいるが、続々と避難している。老人、乳幼児、妊婦、外国人、車椅子の姿がみえる。車で避難してきている人もいる。雨足が強くなってきているので、順次体育館に入れる必要がある。

大岡の自治会、自主防災会の役員で、避難者を体育館や教室に振り分けて、避難所を適切に運営していかなければならない立場にある。以上の項目を踏まえてプレイヤーは、HUG を行う。



大岡小学校校区避難所



大岡南小学校校区避難所



大岡中学校校区避難所

学校開放(災害状況による)。体育館開放から校舎の一部開放の時期

大岡中学校体育館床面積 1,155 m²(ステージを除く)利用人数120人(9,6 m²通路を含む)3,5m²(スフィア基準) 受付人数80名を超えたら校舎の一部開放準備をする。

大岡南小学校 体育館 785 m²(ステージを除く)。 大岡小学校 体育館床面積630m²(ステージをのぞく)。

※スフィア基準とは？ 災害や紛争の影響を受けた人々に対する人道支援の最低基準を定めたもので、正式名称は「人道憲章と人道対応に関する最低基準」です。この基準は、被災者が尊厳ある生活を営むために必要な支援の

レベルを具体的に示しており、避難所の住居スペースやトイレの数、水や食料の供給量などが含まれます。

スフィア基準は、以下の4つに分野における最低基準を定めています。

- 1、 給水、衛生、衛生促進(WASH)： 飲料水や生活用水の供給量、トイレの設置数男女比率などが含まれます。
- 2、 食料の確保と栄養： 食料の栄養価や供給量などが含まれます。
- 3、 シェルター、居留地、ノン・フードアイテム： 避難所の一人当たりの住居スペースや、毛布などの非食料物資の 提供などが含まれます。
- 4、 健康活動： 医療サービスの提供などが含まれます。

スフィア基準は、国際的な基準であり、多くの国連機関や NGO が人道支援活動を行う際の参考にしています。例えば避難所におけるトイレの設置基準は、発生当初は避難者50人に対して 1 基、その後は 20 人に対して 1 基とされています。また、男女比率は女性用を男性用の 3 倍とすることが推奨されています。スフィア基準は、災害時の非難所生活における環境改善だけではなく、平時の防災計画や災害時の緊急対応にも活用できます例えば、避難所の運営ガイドラインにはスフィア基準を参考にすべき国際基準として紹介されています(内閣府防災情報)。

安全の過信が災害時の運命を分かっ！ ～より良い避難所生活を目指して～



イラスト1は、地震発生当時の街並み イラスト2は、皆がバラバラ自分勝手の避難所 イラスト3は、皆が主役の避難所

1と2を比べて、配慮されていることは何か考えてみましょう。

静岡県における避難所運営の問題点は、主に運営体制の不明確さ、避難者の多様性への対応、物資や空間の不足、そして避難所内のトラブル発生などが挙げられます。特に自主防災組織間の連携不足や、要配慮者への対応の遅れが課題として指摘されています。静岡県における避難所運営の問題点は

運営体制の不明確さ： 誰が避難所を運営するか、運営組織や役割分担が明確でない場合がある。

避難者の多様性への対応： 高齢者、障害者、外国人など様々な背景を持つ避難者がいる中で、それぞれのニーズに対応した支援が必要。

物資の不足： 食料、水、生理用品などの物資が不足し、特に初期段階で混乱が生じやすい。

空間設計の課題： 避難所のスペースが限られているため、プライバシーの確保や感染症対策が難しい。**避難所内のトラブル：** 食品の奪い合い、場所取り、騒音、窃盗、暴行、性犯罪などのトラブルが発生する可能性がある。**自主防災組織の連携不足：** 複数の自主防災組織が、同じ避難所に集まる場合、連携がうまくいかず、運営が非効率になる可能性がある。

情報伝達の遅れ： 避難所情報や安否確認、支援物資に関する情報が正確に伝わらない場合がある。

心のケアの必要性： 避難所生活のストレスや不安から、精神的な健康を損なう人がいるため、心のケアも重要になる。

ペットの対応： ペットと避難して来る場合もあり、あらかじめ対応策の準備を進める。

トイレ問題： 断水や停電により、トイレが使えなくなる、または仮設トイレの設置に時間がかかる場合がある。

感染対策の遅れ： 避難所内での感染症拡大を防ぐための対策が不十分な場合がある。

これらの問題点を克服するためには、事前の準備、関係機関との連携、避難者への情報提供、避難所運営マニュアルの作成と周知、そして避難所運営訓練の実施などが重要になります。**三校の避難所マニュアルの担当者が変わっても誰でも分かるように作成し、継続していく事が大切です。**